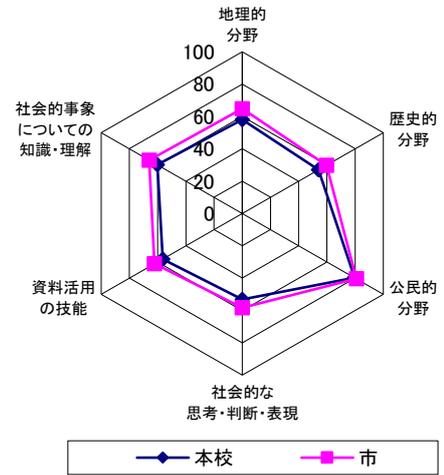


宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	58.1	64.8	54.5
	歴史的分野	54.1	59.7	52.2
	公民的分野	79.6	80.9	69.4
観点別	社会的な思考・判断・表現	53.2	58.3	49.5
	資料活用〇技能	56.4	62.2	53.1
	社会的な事象〇知識・理解	60.2	66.0	57.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<p>○世界地図を題材とした基本的な知識・技能を問う問題の正答率が、市の平均を3ポイント上回った。</p> <p>●大問2、日本の諸地域に関する設問の正答率が低く、市の平均を5～10ポイント下回っている。</p> <p>●地理的分野全体では、6.7ポイント下回っている。</p>	<p>・日本の諸地域分野は、1年時に学習する世界の諸地域分野に比べ、より詳しい内容を学習する。そのため、多くの生徒から敬遠されがちな分野である。教材や授業展開を工夫することで生徒の興味関心を高め、意欲的に学習に取り組む態度を養う。</p> <p>・記述問題に対する正答率が低いいため、毎日の授業に振り返りやまとめを書かせる活動を入れることで、地図やグラフから読み取ったことを表現する力を養う。</p>
歴史的分野	<p>○古代・中世に関する設問については、市の平均を上回る正答率の問題が一つあり、その他の問題でも、市の平均との開きが4ポイント以内に収まっている。</p> <p>●近世(江戸時代)に関する問題では、全ての問題で市の平均を下回っており、最も正答率が低い問題では市の平均を11ポイント下回っている。</p>	<p>・古代、中世に比べて、近世以降の歴史では、より複雑化する歴史的事象に対して、丁寧な理解が求められる。単元を貫く課題を設定し、時代を大観する活動を行うことで、大まかな流れやその時代の特色を理解させる。</p> <p>・単元テストや定期テストを活用し、基本的な語句や人名は全ての生徒が理解できるよう支援する。</p>
公民的分野	<p>○公民的分野全体では、市の平均を1.3ポイント下回っており、地理的分野や歴史的分野と比較すると、ポイントの開きがやや抑えられている。</p> <p>○効率と公正に関する問題では、市の平均を4.0ポイント上回っている。</p> <p>●グローバル化や、多文化社会に関する問題では、市の平均を4.4ポイント下回っており、国際的な諸課題に対する理解が乏しいことがうかがえる。</p>	<p>・公民的分野においては、定期テストにおいても平均点が高いことが多く、苦手意識をあまり感じない生徒が多い。一方で、政治や経済に対する興味関心が低く、公民的資質を養うことはできていない。今後は、日常生活に関わる話題や、リアルタイムで起きている話題を積極的に取り上げ、社会への興味関心を抱かせるような工夫を行っていく。</p> <p>・他教科、他領域との関連性を意識し、習得した知識を体系的に活用できる技能を育む。</p>